

路面電車と これからの札幌

路線のループ化や
新型低床車両の導入を盛り込んだ
具体的な計画が完成

1日平均約2万人を超える利用があり、地下鉄やバスと並び公共交通機関として、大きな役割を果たしている路面電車。

市民議論などを経て平成17年に存続が決まった後、活用方法や経営のあり方などについて、さまざまな議論が交わされました。そこで出された意見などを踏まえ、今年4月に「路面電車活用計画」が完成。今回の特集では、その計画の概要を紹介します。

この特集に関するお問い合わせは、都市交通課 ☎211-2492



路面電車に関する これまでの経緯

平成17年

市民アンケートによる市民の意向などを踏まえて検討を重ね、**路面電車の存続が決定**。さらなる活用を図るため、学識経験者による検討会議を開催

18年

同会議から、「**まちを元気にするため、大通・すすきの・札幌駅周辺の3地区を結ぶよう延伸をすべき**」との提言を受ける

延伸の費用やそれに伴う経営などの検証を進める

22年3月

市は、市電の経営基盤の強化とまちづくりへの活用を図るために**延伸すべきと判断**。延伸の検討地域として「**都心**」「**創成川以東**」「**桑園**」の3地域を設定

22年4月～

経営や延伸についてのパネル展や市民会議を開催。市民の皆さんから具体的な延伸ルートについて多くの意見を受ける



22年に開催した市民会議には無作為に抽出された市民が参加。採算性の向上や新車両、延伸などの議論が行われました

24年4月

さまざまな意見を踏まえ
路面電車活用計画が完成